顔

札臨技の会長に就いた

森谷 純氏

生涯教育充実、市民PRも

北臨技（北海道臨床衛生検査技師会）の札幌地区組織として、会員二千八百人の半数が集中する札臨技（札幌臨床検査技師会）。十五代会長に就き「学術や技術を研さんする職能団体として、ますます発展させたい」が抱負だ。

新人向けセミナー、泊りがけの研修会といった生涯教育に加え、一人（少人数）職場に勤務する会員同士の交流会といった企画を充実。「会員の横のつながりを深め、仕事上の悩みの解決につながれば」と、札幌地区以外からも積極的な参加を呼び掛ける。

データ統一化プロジェクトを通じ精度管理マニュアル作成など、臨床検査のさらなる質向上にも取り組む。

近年は採血業務を行えるようになり、二十七年度から検体採取も可能に。患者と接する機会が増え、分かりやすい検査説明のスキル向上が求められる。しかし、他の医療職と比べ「まだまだ市民に役割を理解されていない」。

認知度向上委員会を本年度に新設。十一月二十二日にサッポロファクトリー（中央区）で「検査deフェスティバル」を予定するなど、会員一丸で活動を展開していく。

北大腫瘍病理学分野に勤務。道細胞検査士会副会長、国際細胞検査士。

地域医療ビジョンの指針策定へ議論開始

厚生労働省の「地域医療構想策定ガイドライン」

省労検討会 厚検

厚生労働省の「地域医療構想策定ガイドラインのガイドラインづくりに向け、本格的な議論を始めた。月一、二回のペ

[illegible]

[illegible]

[illegible]